令和3年度　LINE を活用したアンケート　調査結果

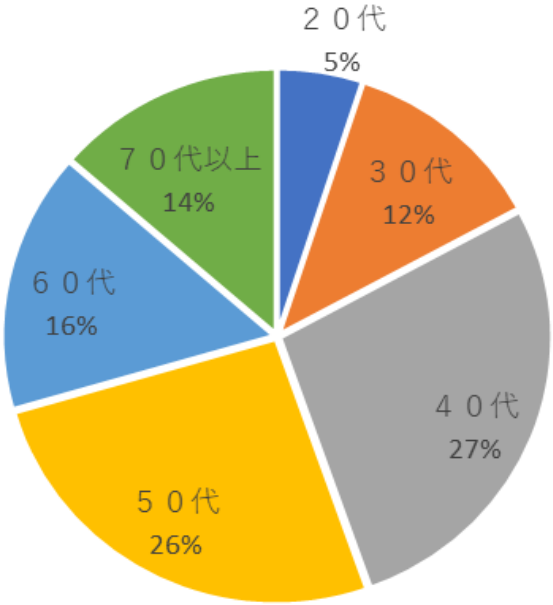
「放射線に関する意識調査ついて」

テーマ	放射線に関する意識調査について
目　的	東京電力福島第一原子力発電所事故の発生から11年が経ちますが、今なお放射線への不安は払拭されておりません。 この放射線についての考えやご要望を調査し、市民の意識がどのように変化しているのかを把握することで、今後の放射線対策と風評払拭のさらなる推進を図ります。

【調査期間】　令和4年3月1日(火)～3月14日(月)午前8時
【対象者数】　19,349 名
（福島市公式 LINE 友だち登録者のうち、受信設定が市内かつアンケート同意者）
【回答者数】　397名
【回 答 率】　2.1%

問1	あなたの年齢についておたずねします。

ア　20 代	20 人
イ　30 代	48 人
ウ　40 代	109 人
エ　50 代	103 人
オ　60 代	63 人
カ　70 代以上	54 人

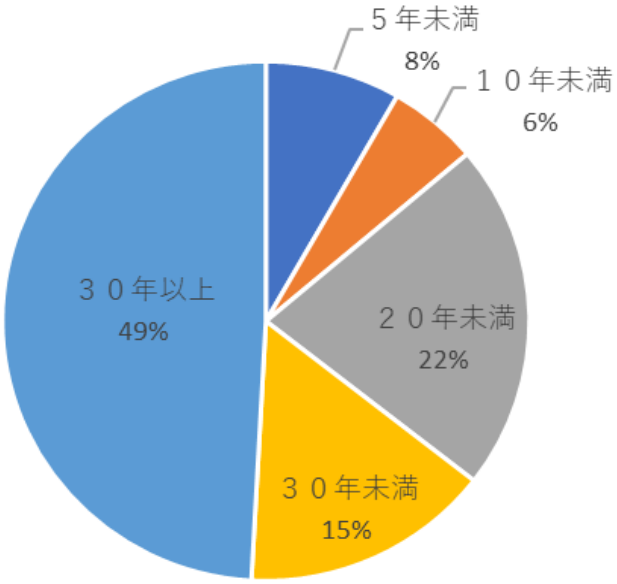


＜回答者数:397 人＞

【環境再生推進室】
回答者の年齢は、「40代」が最も多く、次いで多い「50代」の2つの年代で5割を超えています。「60代」、「70代以上」、「30代」、と続き、「20代」、は1割未満となっています。

問２	現在の地域にお住まいになって何年になりますか。

ア　５年未満	33 人
イ　10 年未満	22 人
ウ　20 年未満	86 人
エ　30 年未満	61 人
オ　30 年以上	195 人



項目	年代別回答数					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ア　5年未満	5	7	9	8	1	3
イ　10年未満		7	8	4	3	
ウ　20年未満	5	8	34	26	7	6
エ　30年未満	10	6	14	12	8	11
オ　30年以上		20	44	53	44	34
合計	20	48	109	103	63	54

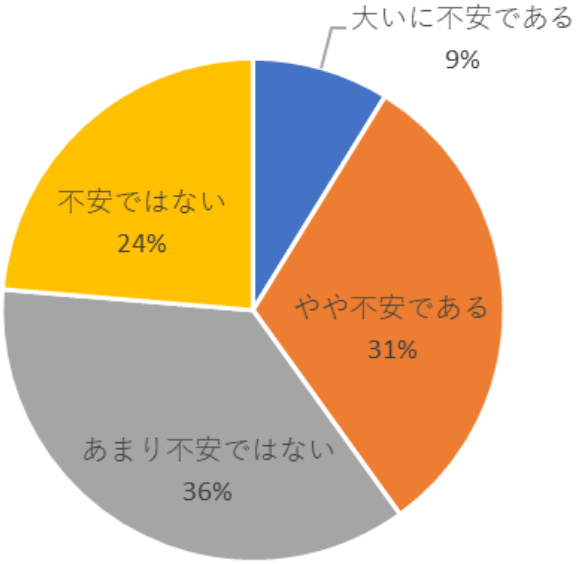
＜回答者数：397 人＞

【環境再生推進室】

　回答者の居住年数は、「30年以上」と回答した方の割合が最も多く、全体の約5割を占める結果となりました。次いで「20年未満」、「30年未満」、「5年未満」、「10年未満」と続いています。

問3	放射線による外部被ばく※が、あなた自身の健康に及ぼす影響について、現在不安を感じていますか。※外部被ばくとは、放射性物質が人体の外部にあり、体の外部から放射線にさらされること。

ア　大いに不安である	35 人
イ　やや不安である	124 人
ウ　あまり不安ではない	144 人
エ　不安ではない	94 人



項目	年代別回答数					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ア　大いに不安である	1	3	9	11	4	7
イ　やや不安である	5	14	37	31	21	16
ウ　あまり不安ではない	7	21	38	31	26	21
エ　不安ではない	7	10	25	30	12	10
合計	20	48	109	103	63	54

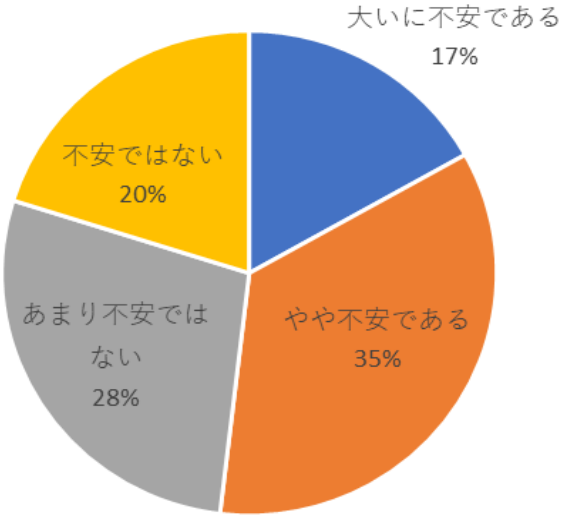
＜回答者数：397 人＞

【環境再生推進室】

外部被ばくへの健康不安について「あまり不安ではない」と「不安ではない」が全体の6割を占める結果となりました。「やや不安である」が約3割、「大いに不安である」については1割未満となっています。

問4	放射線による外部被ばくが、あなた自身ではなく、あなたの家族の健康に及ぼす影響について、現在不安を感じていますか。

ア　大いに不安である	67 人
イ　やや不安である	139 人
ウ　あまり不安ではない	111 人
エ　不安ではない	80 人



項目	年代別回答数					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ア　大いに不安である	1	6	22	19	11	8
イ　やや不安である	8	16	37	36	21	21
ウ　あまり不安ではない	5	16	29	22	24	15
エ　不安ではない	6	10	21	26	7	10
合計	20	48	109	103	63	54

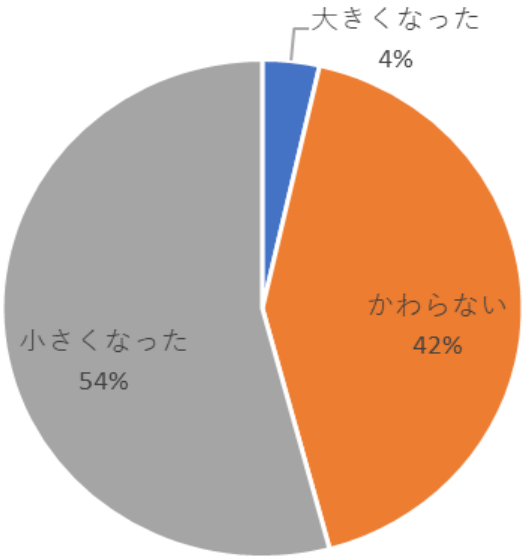
＜回答者数：397 人＞

【環境再生推進室】

外部被ばくが家族の健康に及ぼす影響について、「あまり不安ではない」と「不安ではない」が全体の約5割となりました。「やや不安である」が約3割、「大いに不安である」については2割未満となっています。

問５	原発事故から11年が経ちますが、外部被ばくによる健康不安は、事故当時から現在まででどのように変化しましたか。

ア　大きくなった	14 人
イ　かわらない	168 人
ウ　小さくなった	215 人



項目	年代別回答数					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ア　大きくなった	2	1	7	2	1	1
イ　かわらない	7	23	40	42	34	22
ウ　小さくなった	11	24	62	59	28	31
合計	20	48	109	103	63	54

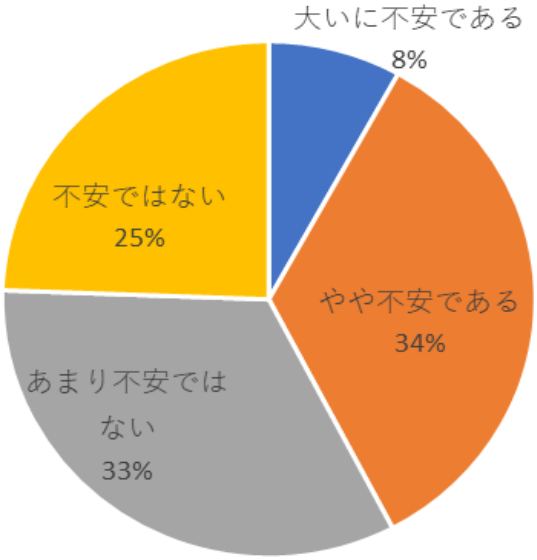
＜回答者数：397 人＞

【環境再生推進室】

事故当時から現在において、外部被ばくによる健康不安について、「小さくなった」が全体の約5割となりました。「かわらない」が約4割、「大きくなった」については1割未満となっています。

問6	放射線による内部被ばく※が、あなた自身の健康に及ぼす影響について、現在不安を感じていますか。※内部被ばくとは、放射性物質を含んだ食べ物を食べたり、空気中の放射性物質を吸い込むなどして、体の内部から放射線にさらされること。

ア　大いに不安である	32 人
イ　やや不安である	136 人
ウ　あまり不安ではない	132 人
エ　不安ではない	97 人



項目	年代別回答数					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ア　大いに不安である		2	10	11	3	6
イ　やや不安である	9	13	37	35	28	14
ウ　あまり不安ではない	4	21	38	28	21	20
エ　不安ではない	7	12	24	29	11	14
合計	20	48	109	103	63	54

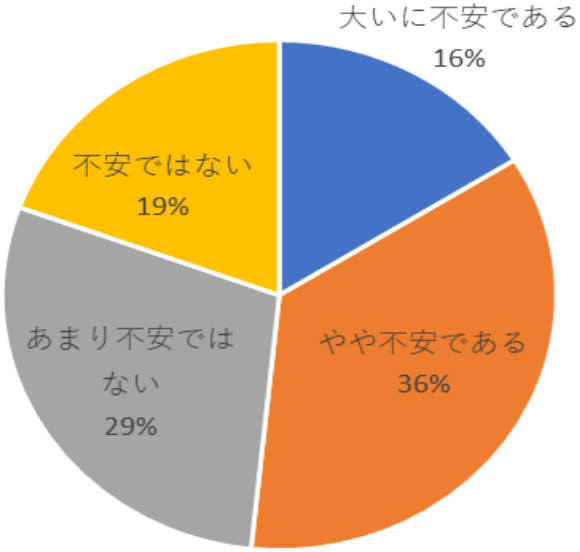
＜回答者数：397 人＞

【環境再生推進室】

内部被ばくへの健康不安について「あまり不安ではない」と「不安ではない」が全体の約6割を占める結果となりました。「やや不安である」が約3割、「大いに不安である」については1割未満となっています。

問7	放射線による内部被ばくが、あなた自身ではなく、あなたの家族の健康に及ぼす影響について、現在不安を感じていますか。

ア　大いに不安である	64 人
イ　やや不安である	141 人
ウ　あまり不安ではない	115 人
エ　不安ではない	77 人



項目	年代別回答数					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ア　大いに不安である	2	4	23	17	11	7
イ　やや不安である	8	15	38	39	24	17
ウ　あまり不安ではない	4	18	28	26	20	19
エ　不安ではない	6	11	20	21	8	11
合計	20	48	109	103	63	54

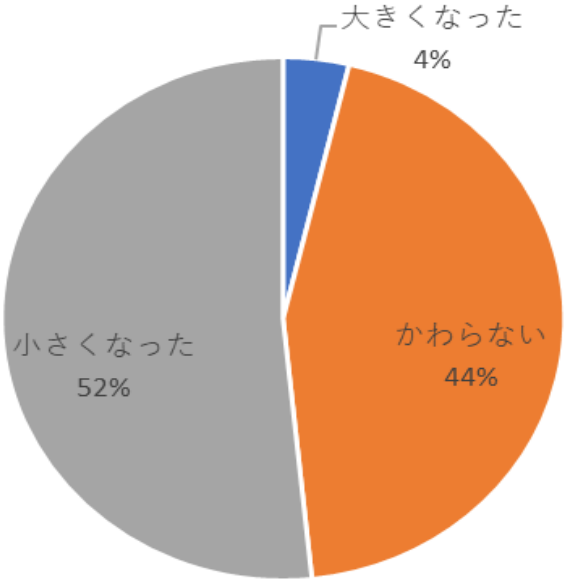
＜回答者数：397 人＞

【環境再生推進室】

内部被ばくが家族の健康に及ぼす影響について、「あまり不安ではない」と「不安ではない」が全体の約5割となりました。「やや不安である」が約4割、「大いに不安である」については2割未満となっています。

問8	原発事故から11年が経ちますが、内部被ばくによる健康不安は、事故当時から現在まででどのように変化しましたか。

ア　大きくなった	15 人
イ　かわらない	177 人
ウ　小さくなった	205 人



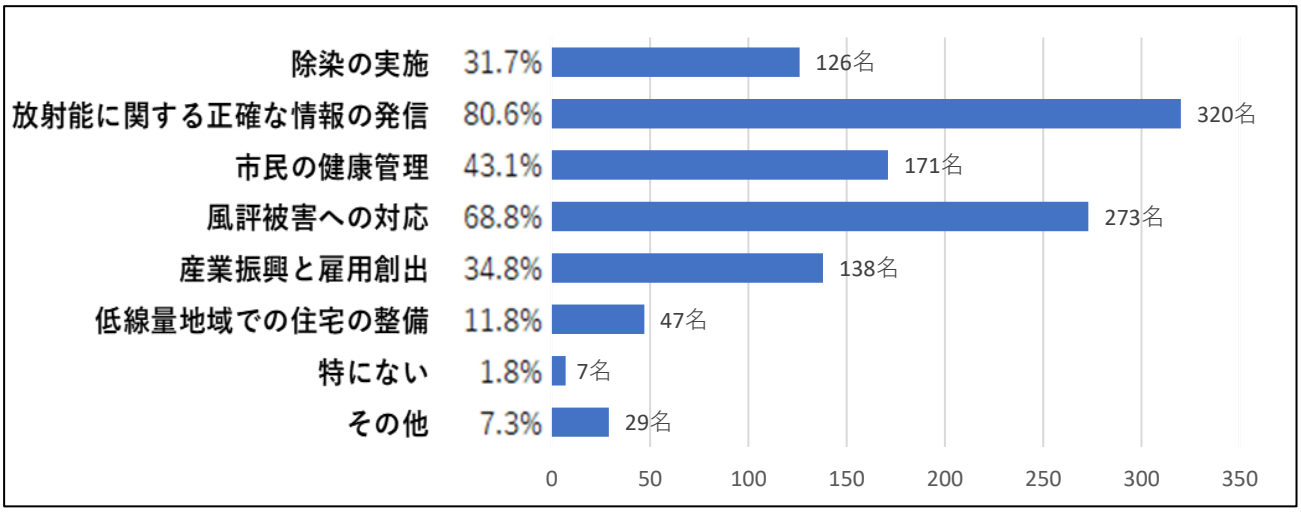
項目	年代別回答数					
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ア　大きくなった	2	1	6	3	1	2
イ　かわらない	8	24	45	44	32	24
ウ　小さくなった	10	23	58	56	30	28
合計	20	48	109	103	63	54

＜回答者数：397 人＞

【環境再生推進室】

事故当時から現在において、内部被ばくによる健康不安について、「小さくなった」が全体の約5割となりました。「かわらない」が約4割、「大きくなった」については1割未満となっています。

問9	今後の放射線対策と風評払拭の推進を図るため、国・県・市が今後とくに力を入れるべきだと考えるものを3つまで選んでください。



※割合は、回答者数397名に対する値

項目	年代別回答数						
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
ア 除染の実施	3	15	30	31	25	22	126
イ 放射能に関する正確な情報の発信	17	40	86	77	58	42	320
ウ 市民の健康管理	6	21	49	47	25	23	171
エ 風評被害への対応	13	37	66	68	47	42	273
オ 産業振興と雇用創出	11	22	36	41	17	11	138
カ 低線量地域での住宅の整備	2	4	19	11	5	6	47
キ 特にない			6			1	7
ク その他	1	3	11	10		4	29
合計	53	142	303	285	177	151	1111

【環境再生推進室】

特に力を入れるべきものとして考えるのは、全ての年代において「放射能に関する正確な情報の発信」が最も多く、次いで「風評被害への対応」、「市民の健康管理」、「産業振興と雇用創出」、「除染の実施」、「低線量地域での住宅の整備」、「その他」、「特にない」の順になっています。

「その他」の回答　※回答欄に記入されたものをすべて記載

年代	その他の回答
２０代	海への放出ついて等懸念する声に対して正確さだけでなく、安心要素を増やす上でも何故大丈夫と言えるのか、情報を得やすかったり、目に見える形で子供でも分かりやすいような情報発信をして欲しい
３０代	健康被害があった場合の補償
３０代	復興住宅の扱いについて 1.使用されていない仮設住宅の撤去 2.復興住宅(仮設ではない)の空き部屋を市民に提供 以上を進めてほしい。 1は景観が損なわれるのと、スペースの有効活用。2は、老朽化した市営住宅の代わりとして使用。さらに老朽化した市営住宅を取り壊して、新たに市営住宅を建ててほしい。 以上になります。 是非ご検討ください。
３０代	被災した原子力発電所の安全な解体
３０代	除染作業により発生した除去土壌の運搬について、運搬車両が大型であるため、通行経路の拡幅工事を併せて進めた方がいいと思う。
４０代	福島第一原発の即時廃炉及び廃炉状況の公表
４０代	そもそも「騒ぎすぎ」県外避難者の支援なども考えなおすべき。
４０代	ちゃんと信頼できる情報と対応をお願いしたいです。
４０代	子供以外への被曝検査の実施による健康調査
４０代	被害を受けた人にはお見舞い申し上げます。一方で、十分な金銭補償がなされており、科学的では無い不安には、相応の対策で良いものと思います。納税者としては、適切な税金の使用を希望します。
４０代	子供の成長に関して、この地域と遠く離れた地域で健康上差があるのかないのか、2011年以降のデータを公開してほしい
４０代	福島沖の魚介類に不信を抱く人がいなくなるような取り組み
４０代	現状の中でこれまで通り生活できれば問題ない。除染などにお金を使うのをやめて、他の地域から人が集まる町づくりに徹底してほしい。もう震災、放射能、復興などの言葉を使わないで当たり前に前進を願う。中途半端な町づくりは絶対にダメ
４０代	風評被害を無くすには正確な情報を全国全世界に提示するべき。同時に住む人達の安全性を高めること
４０代	これから先も風評被害は払拭できない。福島は汚染されていて可哀想と言われるのもつらい。何か夢の国のようなものを作って暗い話題から変えていけばいいのでは。
４０代	風評被害や復興だけではなくいまなお不安な気持ちで県内の食べ物や飲み物を控えている家庭もあることを知ってほしいです給食も県内や市内の食べ物を控えてほしいです風評被害アピールに子供たちをまきこまないでほしいですパンも米粉をやめてほしいですまだ不安で県内の食べ物を食べさせたくない家庭もあることをわかっていてほしいです。

年代	その他の回答
４０代	がん検診を充実させ、個人の費用負担を減らす
４０代	食品の放射線量測定、地域の放射線量測定の継続と、情報公開。 正しい放射線教育は、過度に安全だと言い過ぎている部分もあると思う。不安を理解する立場に立ってから、発信してほしい。 汚染土の再利用は、せっかく除染した場所が再汚染されるだけ。不安しかない。薄めれば良いという話ではない。生態系で濃度が上がる可能性、低線量被曝が続く危険性などを無視している。また、内部被曝の危険が高まる。 すでに外部被曝し続けているのだから、1ベクレルも内部被曝はしたくないし、させたくない。 風評被害について、実際に線量が高い食品があるのに、買ってもらえないというのは、風評被害とは言わないのでは？
４０代	放射線量の推移データをより目につくように公開する。
５０代	テレビや新聞等で原発事故を触れないでもらいたい。
５０代	現在市民になって在住している元被災地の方との格差(優遇されてたり)を見るとあまり快く思えないのは私が心や家計が貧しいからなのでしょうか？ゴネドクしたものが勝ち組みたいなカンジがしてよく思っておりません
５０代	県民へこそ放射線に対する正確な認識と行動を理解させる必要があると思う。何かあると放射線が心配だとかの声を聞くが、県民がそんなに心配してる所のものを他県の人が食べたり、遊びに来たりするのか？住んでる人が正しく放射線を理解して対応することが、福島の価値を上げることだと考える。
５０代	他国から放射線を扱う施設の攻撃への抑止力として核保有すべき。エネルギーインフラの安定供給を目指して原発政策を議論すべき。温暖化対策が進まない。
５０代	放射性汚染水の海への放出には不安があります。実施されれば、福島沖で捕れる水産物を購入するのはやはり控えたいと思ってしまいます。県民だからこそ漁業者を応援したい気持ちはありますが、家族の健康を引き換えにするのは躊躇われます。
５０代	農業に関して、特に米の生産者を守ってほしいです。
５０代	農地転用を簡単に行なえる環境(法律？)を整備したり、市街化調整区域の見直しをしたりして、宅地や産業・工業用地を確保し、人と仕事を呼び込んで活気を上げて風評を払拭する。
５０代	当時の町の正確な線量を教えてくださーい子供達は，線量の低い県外で，たまには静養が必要かなと思います
５０代	汚染水の海洋放出について、基準値以下に薄めて放出しても、大量に放出すれば影響が出るのではないか。 絶対に大丈夫と言うならば、タンカーなどで他地域(仮に関東）に運んで放出することも視野に入るのでは？
５０代	山林の除染が全くされていない！ 海産物に対してはクローズアップされているが、山林山菜などで生計を立てていた、または趣味にしていた者には納得いかない！
５０代	子供達の甲状腺ガンについて、原発事故に関係ないとの見解は間違っていると感じています。東京電力をかばうことや、国や方策を守る事を重視するのではなく、病気になってしまった方々の側に立って、真実を報道して欲しいと願います。
７０代	昨年、喉頭がんが判明し手術しました。放射線との関連が有るのかどうでしょうか？ハッキリ言って心配です。
７０代	ガン治療で、放射線治療を受ける際、主治医の先生の説明の中で放射線の強さは、原発事故の線量の数万倍の線量を短時間ですが、放射する旨の話を受けました。 原発事故の線量は気にしなくてもいい量ですが、世間の実情に気を配らなければなりません。の説明を受けたので、原発事故線量は　個人的には気にしていません。
７０代	国の原発推進政策が理解できません。東京電力の管理体制のズサンさに危惧を感じる。
７０代	東京電力の国営化と国の責任
７０代	干し柿の自粛令を早く解除

【環境再生推進室まとめ】

今回のアンケートは、「第6次福島市総合計画実行プラン」で定める重点施策「復興・創生のための放射線対策と風評払拭の推進」において、取り組む事業等をより満足できるものとするため、放射線に対する市民のみなさまのこれまでの意識の変化や、今後の放射線対策で重視するべき要素は何かについて把握することを目的として実施しました。

≪結果の分析≫

問1でアンケートの回答者の年代をみると、40代と50代のかたが約半数以上を占めており、また問2の現在の住まいの年数についても、約半数のかたが30年以上と回答していることから、11年前の原発事故当時から現在において、主に子育て世代が放射線について関心が高いことがうかがえます。

問3の外部被ばくと問6の内部被ばくの自分自身への影響については、半数以上のかたが「不安ではない」または「あまり不安ではない」と回答しています。特に問5と問8で原発事故当時から11年の経過における健康不安の変化について質問したところ、自分自身の健康への影響に対する不安は小さくなってきていることがわかりました。

一方で、問4と問7の家族など自分自身以外の方たちへの放射線の影響についての質問では、約半数の方たちが現在も不安であることがわかりました。

問9では、国・県・市への今後とくに力を入れるべき放射線対策と風評被害に対する取り組みについて質問したところ「放射能に関する正確な情報の発信」が最も多かったことから、目に見えない放射線の有効な対策は、わかりやすく正確な情報を発信し、正しく理解してもらうことであると、あらためて認識できました。

今後も、市民の皆さまからの貴重なご意見を参考にしながら、放射線対策と風評払拭のさらなる推進をしていきます。ご協力ありがとうございました。

【お問合せ先】

福島市役所（〒960－8601　福島市五老内町3番1号）

≪アンケート内容に関して≫

福島市環境部環境再生推進室除染総務係

電話　024－535－1136（直通）

≪LINE アンケート制度に関して≫

福島市政策調整部広聴広報課

電話024－563－7488（直通）